

元駐アンゴラ日本大使

名井良三氏 講演会

アフリカから見た ポルトガル

2017年7月10(月) 11:00-12:30

上智大学四谷キャンパス中央図書館9階L921

使用言語 日本語

入場 無料

事前申し込み 不要



【講演者プロフィール】

東京外国語大学ポルトガル・ブラジル語学科を卒業して、1975年に外務省に入省する。外務省大臣官房在外公館課現地職員管理官、在ポルトガル大使館一等書記官、在シカゴ総領事館領事、在モザンビーク大使館参事官、参議院国際交流課長を経て、2009年ベレン総領事、2011年から2014年までアンゴラ駐節特命全権大使。

現在、東京外国語大学社会国際貢献情報センター副センター長、同大学現代アフリカ地域研究センターアドバイザー、日本ポルトガル協会理事。

中世から海に進出したポルトガルは、奴隷貿易、植民地化等を通じ、アフリカにとっては迷惑な存在だったであろう。その後のアフリカ独立の波の中でもポルトガルは最後まで植民地化を堅持したヨーロッパの国となった。

現在ではアフリカに5つのポルトガル語圏諸国がある。最早過去の宗主国のごとき影響力はない。逆にアフリカが大きく育ちつつある。最早、ポルトガルにはアフリカに対する影響力はないのか。

これらのことを見ながら、ポルトガルのことを考えていきたい。

また、南米で使われるポルトガル語とは異なるヨーロッパ・ポルトガル語の重要性も取り上げる。この点は、外務省の制度と外務省の中でのポルトガル語専門家のことを紹介しつつ、その流れの中で話す。



上智大学ヨーロッパ研究所

〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町7-1 上智大学中央図書館7階 721 B

Tel: 03-3238-3902

E-mail: i-europe@sophia.ac.jp